

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成27年7月28日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 農学研究科 森林科学専攻

職 名 教授

氏 名 北 島 薫

助成の種類	平成27年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 国際会議開催助成			
事業内容	日本熱帯生態学会25周年記念公開国際シンポジウム			
開催期間	平成27年 6月19日 ～ 平成27年 6月22日			
開催場所	京都大学稲盛財団記念館			
参加者	総数	116名		
	内訳	国外からの参加者 10名 国内からの参加者 106名		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	事業に要した経費総額	1,523,004 円		
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 日本熱帯生態学会支援金、京都大学GSSプログラムなど		
	経費の内訳と助成金の使途について			
		費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
		招へい旅費 (海外6名、国内1名)	1,523,004	996,104
		プログラム冊子印刷製本代	39,964	3,896
	運営補助要員人件費	51,250	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団からの助成のおかげで、限られた予算を大変有効に活用でき、著名な研究者を海外から6名、国内から4名招へいし、学会25周年の特別企画にふさわしい、大変充実した内容のシンポジウムとして、多くの聴衆から高い評価をいただきました。インターネットでのビデオ同時中継も行なったので、さらに多くの聴衆が世界中から参加しました。京都大学、及び、日本の熱帯生態学分野における活発な研究活動を世界に発信できました。上記の会計報告は、学会全体の他の運営経費は含まず国際シンポジウムの部分だけですが、外国からの招へい研究者を中心とする、ワークショップを学会翌日の6月22日にすることも可能となりましたので、さらなる国際研究交流に大きく貢献しました。			

日本熱帯生態学会第 25 周年記念国際シンポジウムの成果報告
京都大学農学研究科教授 北島薫

京都大学教育研究振興財団の後援により「熱帯地域の持続的な未来を目指すネットワークの構築」というテーマで 2015 年 6 月 19 日に京都大学稲盛財団記念館において開催された国際公開シンポジウムの成果についてご報告いたします。本シンポジウムは日本熱帯生態学会の第 25 周年特別企画として企画されました。日本熱帯生態学会は、熱帯林や人間と自然の関わりを研究する学者の学術交流を図る目的で 1990 年に結成され、これまで毎年、例会を開いてきました。本年度は日本における熱帯林生態学研究および東南アジアを中心とする熱帯域の地域研究を牽引してきた京都大学が開催地として選ばれ、京都大学所属の研究者が実行委員会の中心となって準備を進めました。第 25 回年例会は 6 月 19 日の午後から 21 日の 2 日半にわたって京都大学稲盛財団記念館を会場として開かれ、昨年の宇都宮大会の登録参加者数 108 名を大幅に上回る 168 名の登録参加者を集めての盛況でした。著名な学者を海外から招へいた国際公開シンポジウムに加え、他の関連学会との連携を図る特別セッションなども初めて企画されたことも高い参加率に貢献したと考えられます。

今回のご報告の中心となる国際シンポジウムは学会の第 1 日目、6 月 19 日の午後 2 時から 6 時半までの約 4 時間半にわたって全て英語で執り行われ、北島が司会を務めさせていただきました。この企画は京都大学の上記部局が中心となり、日本熱帯生態学会、京都大学グローバル生存学大学院連携プログラムと共催して実施いたしました。協賛機関として総合地球環境学研究所、地域研究コンソーシアムも加わり、男女共同参画の推進に留意し、司会者、講演者、パネリストの合計 11 名のうち 5 名が女性研究者でした。公開シンポジウムとして位置づけたため、学会参加登録をしていない方々も含めて合計 116 名が会場に集まり、発表と質疑応答が活発に行われました。また、国際若手研究者ネットワークの International Network of Next Generation of Ecologists (INGEE) と提携して YouTube を通してシンポジウムの

Networking for the Sustainable Future of the Tropics
SYMPOSIUM PROGRAM

14:00-14:10 **Welcome remarks:**

Mamoru KANZAKI, JASTE25 Executive Committee Chair (Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan)

Moderator: Kaoru KITAJIMA (Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan)

Lectures:

14:10-14:35 **Stuart J. DAVIES** (Center for Tropical Forest Science, Smithsonian Institution, USA; Global Forest Observatory) *"Forests in the Anthropocene: Recent results from a global forest observing system"*

14:35-15:00 **Robin L. CHAZDON** (University of Connecticut, USA; Association for Tropical Biology and Conservation) *"Networking to understand tropical reforestation and its socio-ecological context in an age of deforestation"*

15:00-15:25 **Hajanirina F. RAKOTOMANANA** (University of Antananarivo, Madagascar; Tropical Biology Association) *"Tropical Biology Association for safeguarding the natural resources in Africa and other tropical regions"*.

(10 min break)

15:35-16:00 **Maira M. M. MOELIONO** (Center for International Forestry Research, Indonesia; Asian Social Forestry Network) *"ASFN, ASFCC and CIFOR Research"*

16:00-16:25 **Mitsuru OSAKI** (Hokkaido University, Japan; International Peat Society) *"The peatland / wetland as carbon-water linkage ecosystems"*

16:25-16:50 **F. E. (Jack) PUTZ** (University of Florida, USA) *"Research networks to promote responsible tropical forest management"*

(10 min break)

17:00-18:00 **Panel discussion**

Panelists:

Ryohei KADA (Shijonawate Gakuen University, Japan)

Yasuyuki KONO (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, Japan)

Claudia ROMERO (University of Florida, USA)

Shoko SAKAI (Center for Ecological Research, Kyoto University, Japan)

全てを同時中継で世界に発信する、という新しい試みも行いました。インターネットで事前登録をした聴衆だけでも約30名以上で、アーカイブされたビデオは現在もインターネット上で閲覧が可能です。

本国際シンポジウムの趣旨は、生物多様性と自然資源に富み、そして、炭素蓄積機能や水の供給などの生態系サービスを提供するなどの視点からも重要な熱帯生態系の保全と持続的な利用を目指しての国際研究協力を推進するためのネットワークの構築と強化です。日本での熱帯研究はこれまで 東南アジアでの地域研究を中心としてきましたが、熱帯研究が今後ますます社会に貢献していくためには、分野を超えてのグローバルな研究交流が不可欠との認識も、本企画の大きな動機です。そこで、アメリカをベースとしてグローバルな研究ネットワークを展開する世界のトップ研究者3名 (Chazdon, Davies, Putz)に加え、アフリカ、アジアでのテーマ別の研究ネットワーク構築に貢献する3名の研究者(Moeliono, Rakotomanana, 大崎)を招へいし、招待講演をそれぞれ25分ずつしていただきました。これらの講演に加え、日本の熱帯研究をリードしてきた京都大学の農学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、東南アジア研究所、京都大学地域研究統合情報センター、生態学研究センターの研究者らをパネリストとして総合討論を1時間行いました。パネリストの方々からも、それぞれ5分程度のコメントをいただき、聴衆からも、チャレンジ性の高い質問やコメントが多数ありました。経験のある研究者にとっても、若手研究者の方々にとっても、刺激のある活発な国際集会でした。



国際公開シンポジウム“Networking for the Sustainable Future of the Tropics”の会場の様子

さらに、このシンポジウムのために遠方から招へいた上記の研究者の方々と京都大学関係機関の研究者を集め、学会の翌日、6月23日には総合地球研究所において「熱帯にける市場メカニズム型自然資源管理の評価」、というテーマでのワークショップも実施しました。このワークショップの趣旨は、国際公開シンポジウムで議論されたトピックの一つに焦点を絞り、研究者間の国際交流を推進することです。具体的には、森林のもつ多面的な価値を引き出す管理手法として近年導入が広がりつつある、森林管理協議会 (Forest Stewardship Council : FSC) に代表される森林認証制度、途上国の森林減少・劣化に由来する排出の削減 (REDD+)、生態系サービスへの支払い (Payment for Ecosystem Service : PES) などの制度に注目し、森林とそれを取り巻く地域社会の研究に携わってきた研究者が、これまで取り組んできた研究、その影響評価手法について紹介し、各制度の問題点や将来的な方向性について議論を行いました。

まとめると、今回ご後援いただいたシンポジウムは、国際的に活躍することを希望する若手研究者の研究国際交流にも大きく貢献し、京都大学の熱帯生態学分野への貢献と重要性を世界に発信し、京都大学の国際戦略 2x by 2020 にも貢献する国際集会と位置付けられると思います。さらに、関連する国際ワークショップを企画することで、専門研究者間の交流を推進できました。このように、大きな成果を上げることができたのも、アメリカなどから著名な研究者を招へいを可能にした、京都大学教育研究振興財団からの支援のおかげと、深く感謝の意を表します。

JASTE25 International Symposium
日本熱帯生態学会 25周年記念国際シンポジウム
Networking for the Sustainable Future of the Tropics
熱帯地域の持続的な未来をみざすネットワークの構築

19 June, 2015 14:00-18:00
 Inamori Foundation Memorial Hall, 3F, Kyoto University
 2015年6月19日 京都大学稲盛財団記念館 3F大会議室

Sponsored by:
 Japan Society for Tropical Ecology (JASTE), Kyoto University Foundation,
 Graduate School of Agriculture, Center for Integrated Area Studies, Center for African Area Studies, and Global Sustainability Studies of Kyoto University

JASTE25 International Public Symposium
Networking for the Sustainable Future of the Tropics
 Speakers & Panelists

 Robin CHAZDON University of Connecticut, USA	 Stuart DAVIES Smithsonian Institution, USA	 Ryohei KADA Shijonawate Gakuen University, Japan	 Yasuyuki KONO Kyoto University, Japan
 Moira MOELIONO CIFOR, Indonesia	 Mitsuru OSAKI Hokkaido University, Japan	 Jack PUTZ University of Florida, USA	 Hajantirina F. RAKOTOMANANA University of Antananarivo, Madagascar
 Shoko SAKAI Center for Ecological Research, Kyoto University, Japan	 Claudia ROMERO University of Florida, USA	<p><i>This JASTE25 International Public Symposium is part of the Interdisciplinary Seminar Series of the Global Sustainability Studies of Kyoto University. The organizers appreciate support by the International Network of Next Generation Ecologists (INNGE) for live video streaming of the symposium.</i></p>	